

2019年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 <講義録 4 限目>

<講座のメインテーマ>

防災・減災の取り組み
その具体的な進め方！

記録：講座協力委員 中島光明

◆開催月日：2019年11月7日(木) 13:30~17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

- ・前半：『災害リスクと対応を老若男女が共有して災害に立ち向かえる
地域社会づくりを考える』 講師：鷲山龍太郎氏（地学会会員・防災士）
- ・後半：『発災対応のススメ ～防災訓練から発災対応訓練へのギアアップ～
講師：畑 謙司氏（災害救済ボランティアNW 上級セーフティリーダー）



講義の様子

講師：鷲山龍太郎氏



《災害に強い学校・まちづくり》

- 東日本大震災の時、横浜市立北綱島小学校校長在任し、以降太尾小学校・長津田小学校校長を歴任
- 阪神淡路大震災以前、小学校では地震・火災対応が何もできていなかった
- 東日本大震災「大川小学校の惨事」の最高裁判決は、教職者にとって厳しく責任を問う内容
- 横浜市防災計画に位置付けられた「地域防災における学校の任務」の具現化に取り組んできた

<学校と地域・保護者との連携>

- ・地域における初期消火や救出など防災力向上は実現可能
- ・脆弱な防災行動の打破は「学校職員・地域・保護者の皆さんとの連携」から
- ・「小学校区において、住民が自助・共助の精神でまちの未来を拓くこと」
- ・「この震災時行動マニュアル」を「全国標準にする夢」を掲げている



講師：畑 謙司氏



『地域防災活動の現実と課題』

首都直下地震が起これば、日本有史最大規模の大惨事になるでしょう！

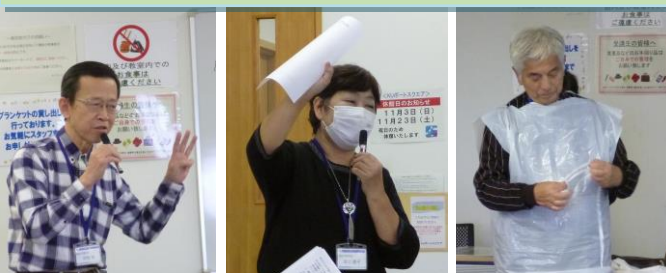
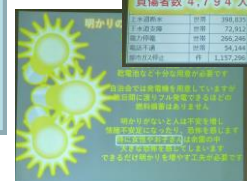
キーワードは「発災対応訓練」：発災直後の公助は全く期待できない事を知る

- 役に立たない防災用品（発電機、チェーンソーなど）：整備不良、使える人材なし
- 防災とは何かを知り、知識の蓄積と人材を備蓄する
- 「発災対応訓練」：災害を知り、発災を想定した実施可能な訓練を行う
主要5機能の停止：水道・電気・ガス・通信・行政
- お客様のようにお膳立てされた防災訓練は、役に立たない（自分たちがやること）
- 人材の備蓄：知っている人から出来る人へ、出来る人から教えられる人へ
- 家庭で買えるものは備蓄庫には準備しない：家庭での準備ゼロをなくす
- 事実をありのままに伝える：在宅避難が最優先

『講演の参考関連資料』

- ・鷲山講師のHP（未来防災）：<http://mirai-bousai.net/>
- ・小学生用副読本「私たちの横浜」に鷲山氏の防災執筆あり（横浜銀行内で閲覧可能）
- ・畑講師への資料請求アドレス：kenji100hata@gmail.com

項目	被害想定
火災消火	13,035棟
消防車両	約183台
死者数	459人
負傷者数	4,794人
緊急車両	約100台



アイスブレイク：「とっさの時のレジ袋」

～被災時に活用が出来る～

- ・レインコート
- ・防寒ベスト
- ・水袋
- ・配布品入れ
- ・簡単トイレ
- ・おむつカバー等々

写真左から：中村 誠さん（講座運営委員長）、早川雅子さん（司会進行）、田中 晃さん（アイスブレイク担当）